

箕面市上下水道事業経営改革プランの 進捗状況の評価について



箕面市水道事業及び公共下水道事業運営審議会
平成25年1月

箕面市上下水道事業経営改革プランの進捗状況の評価について

1 はじめに

箕面市上下水道事業経営改革プラン(以下「経営改革プラン」といいます。)は、箕面市の上下水道事業の経営改革を推進するため、平成24年2月に作成されました。そのめざす姿は

①料金(使用料)を値上げしない

②施設・管路の耐震化・更新事業を着実に実施するための資金を確保するとしています。

この進捗状況については、年1回審議会にて評価をすることとなっており、評価を行いました。

2 評価の内容及び用いる数値

評価の内容は、水道事業・公共下水道事業の

◇収益的収支

◇資本的収支

◇企業債残高、年度末資金残高、企業債発行額と企業債償還額など

経営改革プランに記載している主要な事項とします。

用いる数値は、平成23年度決算数値、平成22年度決算数値及び平成24年度経営改革プラン(以下「平成24年度プラン」といいます。)数値とします。

以下が主要な数値の表です。

経営改革プラン評価に関する主要項目とその数値

■収支関係

(単位:千円)

項目	平成22年度	平成23年度	決算比較	平成24年度	平成23年度決算と 平成24年度プランと の比較	平成27年度	平成32年度	
	決算	決算		プラン		プラン(見込み)	プラン(見込み)	
	①	②	②-①=③	④	②-④=⑤	⑥	⑦	
水道料金	2,409,188	2,352,655	-56,533	2,351,946	709	2,346,356	2,346,356	
納付金	279,320	219,900	-59,420	144,700	75,200	14,913	102,693	
その他	198,179	252,440	54,261	158,750	93,690	273,250	144,250	
収入合計	a	2,886,687	2,824,995	-61,692	2,655,396	169,599	2,634,519	2,593,299
人件費	457,924	410,093	-47,831	418,500	-8,407	378,000	342,000	
受水費	1,007,121	963,190	-43,931	995,214	-32,024	995,847	995,847	
減価償却費	424,338	421,112	-3,226	424,737	-3,625	437,504	437,504	
支払利息	145,941	116,093	-29,848	102,476	13,617	84,717	62,050	
その他	503,808	568,605	64,797	597,829	-29,224	518,733	536,875	
費用合計	b	2,539,132	2,479,093	-60,039	2,538,756	-59,663	2,414,801	2,374,276
損益	a-b	347,555	345,902	-1,653	116,640	229,262	219,718	219,023

■その他項目

項目	平成22年度	平成23年度	決算比較	平成24年度	平成23年度決算と 平成24年度プランと の比較	平成27年度	平成32年度	
	決算	決算		プラン		プラン(見込み)	プラン(見込み)	
	①	②	②-①=③	④	②-④=⑤	⑥	⑦	
年間有収水量(千m ³)	14,015	14,070	55	14,002	68	14,025	14,025	
供給単価(円)	c	171.90	167.21	-4.69	167.97	-0.76	167.30	167.30
給水原価(円)	d	178.37	168.24	-10.13	179.40	-11.16	170.14	167.25
料金回収率(%)	c/d x100	96.37	99.39	3.02	93.63	5.76	98.33	100.03

■年度末資金残高・企業債残高

(単位:千円)

項目	平成22年度	平成23年度	決算比較	平成24年度	平成23年度決算と 平成24年度プランと の比較	平成27年度	平成32年度
	決算	決算		プラン		プラン(見込み)	プラン(見込み)
	①	②	②-①=③	④	②-④=⑤	⑥	⑦
年度末資金残高	1,257,232	1,341,318	84,086	1,042,638	298,680	836,871	525,848
企業債残高	4,406,048	4,022,964	-383,084	3,954,685	68,279	3,243,689	2,580,509

経営改革プラン評価に関する主要項目とその数値

■収支関係

(単位:千円)

項目	平成22年度	平成23年度	決算比較 ②-①=③	平成24年度	平成23年度決算と 平成24年度プランと の比較 ②-④=⑤	平成27年度	平成32年度
	決算	決算		プラン		プラン(見込み)	プラン(見込み)
	①	②		④		⑥	⑦
下水道使用料	1,511,156	1,513,458	2,302	1,523,820	-10,362	1,506,701	1,499,182
その他	328,760	271,982	-56,778	236,514	35,468	224,517	205,057
収入合計	a 1,839,916	1,785,440	-54,476	1,760,334	25,106	1,731,218	1,704,239
人件費	67,829	69,462	1,633	72,900	-3,438	72,900	72,900
流域下水道負担金	468,538	497,477	28,939	509,000	-11,523	512,000	517,000
減価償却費	590,600	594,042	3,442	599,052	-5,010	617,900	672,680
支払利息	211,611	175,129	-36,482	179,490	-4,361	154,625	102,822
その他	218,972	232,052	13,080	248,400	-16,348	235,400	232,900
費用合計	b 1,557,550	1,568,162	10,612	1,608,842	-40,680	1,592,825	1,598,302
損益	a-b 282,366	217,278	-65,088	151,492	65,786	138,393	105,937

■その他項目

項目	平成22年度	平成23年度	決算比較 ②-①=③	平成24年度	平成23年度決算と 平成24年度プランと の比較 ②-④=⑤	平成27年度	平成32年度
	決算	決算		プラン		プラン(見込み)	プラン(見込み)
	①	②		④		⑥	⑦
年間有収汚水量(千m ³)	13,969	14,075	106	13,980	95	13,954	13,884
使用料単価(円)	c 108.18	107.53	-0.65	109.00	-1.47	107.98	107.98
処理原価(円)	d 99.07	98.51	-0.56	102.11	-3.60	100.86	101.90
経費回収率(%)	c/d x100 109.20	109.16	-0.04	106.75	2.41	107.06	105.97

■年度末資金残高・企業債残高

(単位:千円)

項目	平成22年度	平成23年度	決算比較 ②-①=③	平成24年度	平成23年度決算と 平成24年度プランと の比較 ②-④=⑤	平成27年度	平成32年度
	決算	決算		プラン		プラン(見込み)	プラン(見込み)
	①	②		④		⑥	⑦
年度末資金残高	1,502,548	1,510,014	7,466	1,751,178	-241,164	2,111,969	1,531,933
企業債残高	6,047,402	5,943,892	-103,510	6,192,221	-248,329	5,730,781	5,039,711

3 水道事業

■収益的収支

(1)収入

水道事業収益の平成23年度決算額は、平成22年度決算額と比較すると、約6,100万円強の減収となっています。また、平成23年度決算は、平成24年度プラン数値と比較するとほぼ見込み通りとなっています。

水道料金収入の平成23年度決算額は、平成22年度決算額を比較すると約5,700万円の減収となっています。この要因は、平成22年度において、平成22年7月から水道料金(基本料金)の引き下げを行ったことによる減収及び同年10月から福祉減免制度を廃止したことによる増収の相殺の結果と考えられます。

納付金について平成23年度決算額は、平成22年度決算額と比較すると、約6,000万円弱の減収となっています。

評価・意見

- 平成23年度決算における水道事業収益、給水収益については、前年度と比較すると減少しています。引き続き、滞納対策の強化などにより、給水収益の確保に努めてください。
- 平成23年度決算で減少した納付金については、開発、建築の件数で左右されるため、年度ごとに増減が生じることは一定やむを得ないものですが、引き続き納付金収入の確保に努めてください。

(2)費用

水道事業費用の平成23年度決算額は、平成22年度決算額と比較すると、約6,000万円の減少となっています。また、平成24年度プラン数値と比較すると約6,000万円弱の減少となっています。

主な費用を見ると、人件費の平成23年度決算額は、平成22年度決算額と比較すると、約4,800万円の減少となっています。また、平成24年度プラン数値と比較すると約840万円の減少となっています。

受水費の平成23年度決算額は、平成22年度決算額と比較すると、約4,400万円弱の減少となっています。また、平成24年度プラン数値と比較すると約3,200万円の減少となっています。これは、大阪広域水道企業団からの受水量が減少したことによるものです。

支払い利息の平成23年度決算額は、平成22年度決算額と比較すると、約3,000万円弱の減少となっています。この要因は、平成22年度に実施した補償金免除繰上償還制度を活用した結果、支払利息が削減されたためです。

評価・意見

- 人件費については、職員が減少し削減されています。また、平成24年4月及びその後の人事異動により、さらに人件費が減少しています。急激な職員の減少で、市民、事業者に対する業務に支障がでないよう、業務の見直しやバランスのとれた職員配置などとあわせて慎重に進めるようにしてください。
- 受水費については、費用全体の約4割弱と大きな割合を占めています。大阪広域水道企業団水のさらなる値下げを追求するとともに、引き続き受水費の削減に努めてください。
- 支払利息については、引き続き削減に努めてください。

(3) 収益

収益の平成23年度決算額は、平成22年度決算額と比較すると、約160万円の減収となっていますが、利益額は約3億4,600万円を確保しています。また、平成24年度プラン数値と比較すると約2億3,000万円上回っています。

評価・意見

- 引き続き、収入の確保、費用の削減に取り組み、収益の確保に努めてください。

(4) 供給単価・給水原価・料金回収率

供給単価の平成23年度決算額は、平成22年度決算額と比較すると、4.69円低下しています。この要因は、平成22年7月からの基本料金の引き下げ及び有収水量の微増によるものと考えられます。なお、平成24年度プラン額と比較すると0.76円下回っています。

給水原価の平成23年度決算額は、平成22年度決算額と比較すると、10.13円低下しています。この要因は、平成23年度決算の費用中、人件費、受水費及び支払利息が平成22年度と比較すると大幅に減少したことによるものです。なお、平成24年度プラン額と比較しても11.16円下回っており経営改革プランでの計画を上

回るスピードで経費削減が図られています。ただし、経費削減の中には、平成23年度執行予定であった鉛製給水管工事の費用約4,000万円の支出が次年度に繰り越されています。もし鉛製給水管工事が予定どおり平成23年度に執行されていれば料金回収率は約97パーセントになったと推定されます。

料金回収率については、平成23年度は99.39%となりました。平成23年度決算数値は平成22年度決算数値と比較すると、3.02%改善されています。この要因は、上記のとおり供給単価は低下したものの、これを上回る経費削減がなされ給水原価が大幅に低下したことによるものです。

評価・意見

- 供給単価の低下は、水道料金の値下げや有収水量の増加によるものであり想定の内です。供給単価を上げるためには、給水収益の増加が必要です。滞納対策の強化など、給水収益の確保に努めてください。
- 給水原価については、人件費、受水費及び支払利息の削減により大幅に低下しました。人員については、先に述べたとおり市民、事業者に対する業務に支障がでないよう、業務の見直しやバランスのとれた職員配置などとあわせて慎重に進められるよう再度申し述べます。
- 料金回収率については、100%を目指し、給水収益の確保及び業務に支障が生じないよう、経費の削減を着実に進めてください。

■資本的収支

建設改良事業について

平成23年度の主な建設改良事業については以下のとおり実施されました。

区分		場所等	工事内容
配水管関係	配水幹線	坊島水系	φ 300mm L=約180m
	配水管改良	粟生外院3丁目	φ 75~100mm L=約446m
		粟生間谷東6丁目	φ 75~150mm L=約336m
		半町2丁目	φ 75~100mm L=約189m
		箕面2丁目(繰越)	φ 75~100mm L=約273m
		半町4丁目	φ 150mm L=約83m
簡易水道整備 工事関係	受水地築造	止々呂美	V=200m ³
	受水地電気計装 設備工事		電気計装設備工事 一式
受託工事関係	下止々呂美水源 地導水施設ほか 撤去工事	止々呂美	導水管撤去 φ 100mm
			接合井、減勢水槽撤去工事

評価・意見

建設改良事業は、概ね計画どおり工事が行われていますが、一部工事については工期が遅延しています。今後遅延が生じないように、体制づくり、効率的な設計、施工に努めてください。

■その他

- 経営改革プランでは、企業債借入額は企業債償還金額の範囲内としています。平成23年度決算では、企業債借入額は2,760万円、企業債償還金額は約4億1,070万円となっており、経営改革プランで示されたとおり企業債借入額は企業債償還金額の範囲内となっています。
- 年度末資金残高の平成23年度決算額は、平成22年度決算と比較すると、8,408万円増加しています。また、平成24年度プラン数値と比較すると2億9,868万円上回っています。

○企業債残高の平成23年度決算額は、平成22年度決算と比較すると、3億8,308万円減少しています。また、平成24年度プラン数値と比較すると6,827万円上回り、企業債残高は着実に減少しています。

評価・意見

企業債借入額は、企業債償還金額の範囲内であり適切です。資金残高は見込みを上回って確保されています。また、企業債残高は着実に減少しています。引き続き資金の確保及び企業債残高の削減に努めてください。

4 公共下水道事業

■収益的収支

(1) 収入

下水道事業収益の平成23年度決算額は、平成22年度決算額と比較すると、約5,400万円の減収となっています。また、平成24年度プラン数値と比較すると約2,500万円上回っています。

下水道使用料収入について平成23年度決算額は、平成22年度決算額と比較すると約230万円の増となっています。また、平成24年プラン数値と比較すると約1,000万円下回っていますが、概ね見込み通りの収入が確保されています。

評価・意見

平成23年度決算における下水道使用料収入については、前年度と比較すると微増しています。引き続き、滞納対策の強化などにより、下水道使用料収入の確保に努めてください。

(2) 費用

下水道事業費用の平成23年度決算額は、平成22年度決算額と比較すると、約1,000万円増加しています。また、平成24年度プラン数値と比較すると約4,000万円下回っています。

主な費用では、人件費の平成23年度決算額は、平成22年度決算額と比較すると約160万円増加しています。

流域下水道負担金の平成23年度決算額は、平成22年度決算額と比較すると、約3,000万円増加しています。また、平成24年度プラン数値と比較すると約1,100万円下回っています。

支払い利息の平成23年度決算額は、平成22年度決算を比較すると、約2,000万円減少しています。また、平成24年度プラン数値と比較すると約430万円上回っています。

評価・意見

- 人件費の平成23年度決算額は、平成22年度決算額と比較すると微増しました。これは、人員数は変わりませんが人事異動による職員構成が変化したことによるものです。また、平成24年9月に人事異動があり、下水道事業全体では1人減となっています。下水道事業については、計画策定や設計業務などに一定の知識及び経験が必要です。今後、管渠の更新事業を着実に進めていくために事業量に見合った人員の確保が必要です。事業執行と人員配置については適切なバランスを図ってください。
- 流域下水道負担金の平成23年度決算数値は平成22年度決算数値と比較すると増加しました。その理由は、管理負担の各市町負担割合の基になる猪名川流域下水道(原田処理場)への「年間汚水排水推定申告量」が「年間実績汚水排水量」を下回ってきたことから、平成23年度、実績汚水排水量を推定申告量に修正した結果、年間維持管理費が増額しました。
- 流域下水道負担金は、下水道処理施設を利用する自治体の汚水排水量などによる按分の負担でありやむを得ない側面がありますが、流域下水道全体での経費削減については、流域下水道事業体に対しコスト削減努力を求めてください。
- 支払利息については、補償金免除繰上償還制度を活用した効果が発現し、大幅に減少しました。引き続き利息軽減に努めてください。

(3) 収益

収益は平成23年度決算では、2億1,727万円の黒字を計上しました。平成22年度決算額と比較すると6,508万円減少したものの、平成24年度プラン数値と比較すると6,578万円上回っています。

評価・意見

さらなる収入の確保及び経費の削減に努め、収益増を図ってください。

(4) 使用料単価・処理原価・経費回収率

使用料単価の平成23年度決算数値は、107.53円で、平成22年度決算数値と比較すると0.65円低下し、平成24年度プラン数値と比較すると1.47円低下しています。

処理原価の平成23年度決算数値は、98.51円で、平成22年度決算数値と比較すると0.56円低下し、平成24年度プラン数値と比較すると3.06円低下しています。

以上の結果、経費回収率は、平成23年度決算で、109.16%となり、平成22年度決算と比較するとほぼ同水準を維持していますが、平成24年度プラン数値と比較すると2.41%上回りました。

評価・意見

- 使用料単価が低下した要因は、下水道使用料収入は増加したものの、年間有収汚水量が微増したためです。水道使用料と同様、滞納対策の強化などにより、使用料収入の確保に努めてください。
- 処理原価が微減した要因は、経費は増加したものの、年間有収汚水量が増加したことによるものです。引き続き経費の削減に努めてください。
- 平成23年度決算の経費回収率109.16%で、平成22年度決算水準を維持しています。下水道における経費回収率は100%を超え109%水準を維持しており、良好な経営状態にあるといえます。引き続き、経費回収率の維持に努めてください。

■資本的収支

建設改良事業について

平成23年度の主な建設改良事業については以下のとおり実施されました。

区分	事業内容
汚水	公共下水道(桜井排水区)国道171号地震対策緊急整備工事(国費)
	○国道171号汚水管の管更正 φ900mm L=309.99m
	下水道管渠内TV調査委託(国費)
	○桜井排水区の下水道管の長寿命化計画策定にかかるTV調査委託 ・汚水管渠内春雪清掃 16,170m ・TVカメラ調査委託 16,820m
	地震対策緊急整備調査・設計委託(国費)
	○消防署、市立病院等防災拠点から排水される汚水管の地震対策緊急整備工事の調査設計委託 耐震診断・耐震補強策検討 L=9,000m
	市道船場東20号線汚水管渠築造工事
	○汚水管の入れ替え φ200mm L=337m
雨水	公共下水道(桜井排水区)国道171号地震対策緊急整備工事(国費)
	○国道171号雨水管の管更正 φ1,650mm L=145.7m
	(桜井排水区)桜井4番通り雨水管渠築造工事
	○雨水管の破損に伴う入れ替え工事 φ250mm L=242.2m ・組立1号マンホール 14箇所 ・取り付け管増及びます 16箇所

評価・意見

建設改良工事は、ほぼ計画どおり行われました。汚水・雨水とも引き続き地震対策事業を着実に進めてください。また、事業実施にあたっては、社会資本整備総合交付金の確保を積極的に進めてください。

■その他

○経営改革プランでは、企業債借入額は企業債償還金額の範囲内としています。
平成23年度決算では、企業債借入額は2億4,390万円、企業債償還金額は

約3億4,740万円となり、経営改革プランで示されたとおり借入額は償還金額の範囲内となっています。

○年度末資金残高の平成23年度決算額は、平成22年度決算額と比較すると、746万円増加しています。また、平成24年度プラン数値と比較すると2億4,116万円上回っています。

○企業債残高の平成23年度決算額は、平成22年度決算額と比較すると、1億351万円減少しています。また、平成24年度プラン数値と比較すると2億4,832万円下回っており、企業債残高は着実に減少しています。

評価・意見

企業債借入額は企業債償還金額の範囲内であり適切です。資金は見込みを上回って確保され、企業債残高は着実に減少しています。引き続き資金確保及び企業債残高の削減に努めてください。

5 おわりに

今回は、平成23年度決算を踏まえ平成22年度決算及び平成24年度プラン数値と比較し評価しました。総合的な評価として改革は、計画どおりまた計画以上に進捗している事項も多々見られ、順調に進んでいると評価できます。ただし、水道事業の鉛製給水管解消事業など事業進捗が遅れているものもあります。計画を着実に執行していくための体制、方法について検討を加え着実な事業執行に努めてください。

本プランは10年計画です。目標数値は可能な限り早く達成することが望ましいのですが、急激な改革が原因で市民、事業者に対するサービスに支障がでないよう、堅実に改革を進められるよう申し述べます。